

研究課題 (テーマ)	新生児蘇生法 (NCPR) 実施における看護師の視認機能の特徴 ～新人看護職 (初学者) に焦点を当てて		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 母性看護学	講師	小林 絵里子
分担者	看護学部 母性看護学	教授	松井 弘美
	看護学部 母性看護学	講師	村田 美代子
	看護学部 母性看護学	助教	北島 友香
	工学部電子・情報工学科	教授	唐山 英明
	工学部電子・情報工学科	講師	木下 史也
研究結果の概要			
<p>1. 研究協力者の背景</p> <p>本年度は COVID-19 拡大の影響を受けた行動制限の影響から、年度内に協力者を得ることができなかった。</p> <p>2. 人工換気実施中の視点の変化</p> <p>本研究は新生児モデルを用いたシミュレーションラーニングを効果的に行うためにも臨床での看護師の経験値を共有する方法検討の基礎データになることが考えられた。周産期医療に携わる専門職者が教育を受け、個々の対処能力が向上することで新生児の救命率の上昇や、予後の改善につなげることが可能となる。現実には蘇生が必要な場面に直面しても、効果的なシミュレーション経験があれば、落ち着いて対処することが可能となり、看護行為に対する認知面を含めた教育となると考えられ、このことが今後この研究を継続して行う意義である。そのため、研究期間を1年間延長して 2021 年度も継続していく予定である。</p>			
今後の展開			
<p>昨年度からの継続研究であり一般化するにはさらなるデータの測定及び、蓄積が必要である。今年度は初学者のデータとの比較を行う予定であったが、期間を延長したため、さらなるデータの収集と、初学者や、他職種の視線データとの比較を行い、差異を明らかにし、シミュレーションの有効性につなげることが必要である。</p>			